資料論文

音楽表現領域指導法の授業改善にむけた取り組み

振り返り課題における学生の記入内容の分析—
 Efforts to improve lessons
 in music expression area teaching methods:
 Analysis of student entries in reflective assignments

越智光輝 国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

音楽表現領域指導法の授業において、受講している授業の回における学びのポイントを見 過ごしている、授業を通してすでに得られているはずの学びを活用できていない、意欲的な 姿勢で授業を受講しているにもかかわらずこちらの意図とは異なる理解をしている、等の学 生の様子が見受けられる。

本研究では、そのような学生の人数を減らすための授業改善にむけた方策を検討する際の一助とすることを目的に、音楽表現領域指導法の授業終了時の約10分間で学生に課している振り返り課題の4つの項目から、「①印象に残った学び」の記入内容について分析を行った。

調査対象者の 2.2%は、受講した授業の回の学びのポイントと関連していない記入を行っていることが明らかとなった。また、振り返り課題の項目に関する検討の必要性について示唆された。

キーワード:授業改善、音楽表現領域指導法、領域「表現」、振り返り課題

1. はじめに

保育者養成校である国際学院埼玉短期大学(以後、本学)において、幼稚園教諭二種免許 状および保育士資格を取得するために履修が求められている専門科目の1つに、音楽表現領 域指導法がある。この科目を履修した学生は、領域「表現」における音楽表現に関わる指導 法の知識やスキルの獲得に向け、フィールドワーク、グループワーク、個人およびグループ による発表等、実践的な学びに取り組むとともに、授業毎に終了時の約10分間で授業内容の 整理を通じて自らの学びを深めることを目的とした振り返り課題の記入も行っている。

筆者が担当する音楽表現領域指導法をはじめとした領域「表現」に関わる授業だけでなく、本学では様々な科目における授業公開週間や専任教員を中心とした FD を通じた授業改善に取り組んできた。また、堀(2009)、清水(2022)、林田(2023)、筆者の担当する領域「表現」に関連した内容では、藤井(2019)等においても授業改善にむけての研究が行われている。

音楽表現領域指導法を担当する中で、受講している学生の姿から、授業の回における学びのポイントを見過ごしている、授業を通してすでに得られているはずの学びを活用できていない、受講によって得た学びを通じて自分の中でどのような変化が生じたか整理できていない、意欲的な姿勢で授業を受講してはいる学生にもかかわらずこちらの意図とは異なる理解

をしている、等の様子が見受けられた。

本研究では、そのような様子が見受けられる学生数の減少を目的とする音楽表現領域指導 法の授業改善にむけた方策を検討するために、授業終了時の約10分間で実施している振り返 り課題の学生の記入内容の分析を通じて、「授業の回における学びのポイントを見過ごしてい る」学生の実態の把握における振り返り課題の活用の有効性について検証を行った。

2. 方法

2-1 調查対象

令和 5 年度に本学幼児保育学科で 2 年前期に開講された音楽表現領域指導法を履修した学生 95 名 (2 年生 94、科目等履修生 1) を対象とした。

2-2 調査方法

音楽表現領域指導法の授業では、受講した回の授業内容の整理を行うことで自らの学びを深めることを目的に、授業終了時の約 10 分間で学生に振り返り課題を課している。振り返り課題は、学生ポータルサイトの学習ポートフォリオ上に提示され、学生はスマートフォンやタブレットを用いて課題の項目に応じた内容の記入を行っている。記入する内容は「①印象に残った学び」「②学びを通じて感じたこと」「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」「④質問」これら4つの項目であり、提出期限は授業実施日の23:59と定めている。また、記入内容に応じて2点、1.5点、1点、0.5点、0点(未提出)の評価を与えた。

本研究においては、「授業の回における学びのポイントを見過ごしている」学生の実態の把握における振り返り課題の有効性について検証するために、令和 5 年度前期開講の音楽表現領域指導法(以後、令和 5 年度音楽表現領域指導法)の 1 週目の授業後に入力された振り返り課題の 4 つの項目のうち、「①印象に残った学び」の記入内容について分析を行った。また、単語の出現頻度と「スコア」 $^{(1)}$ の分析については、「AI テキストマイニング」 $^{(1)}$ を用いた。なお、令和 5 年度音楽表現領域指導法のシラバスは図 1、学習ポートフォリオに提示した振り返り課題は、図 2 の通りである。

令和 5 年度音楽表現領域指導法第 1 週の授業のテーマは、音を聴くことによる受容と表出、学習内容は、表現の領域における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」に関するグループワーク、である。第 1 週の授業では、まず、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」について、3 歳以上と3 歳未満ではどのような違いが見られるか、受容(インプット) $^{\pm 2}$ と表出(アウトプット) $^{\pm 3}$ の観点から学び、その後、図 $^{3\cdot4}$ に示した課題 $^{(2)}$ に取り組んだ。課題 $^{(2)}$ に取り組んだ。課題 $^{(2)}$ で取り組んだ結果については、多様な価値観(考え方や受け止め方)の存在について理解することを目的として、グループごとによる結果の発表を通じてクラス全体での共有を行った。最後に、受容(インプット)と表出(アウトプット)における個人差を実際に感じることを目的に、Josh H. McDermott(2016)を参考とした $^{(2)}$ つの実験を学生に実施した。実験は、音楽の $^{(3)}$ 要素であるメロディー、リズム、ハーモニーのうち、メロディーとリズムは全く同一でハーモニーだけが異なる $^{(2)}$ 種類の楽譜(譜例 $^{(2)}$ を授業担当者がピアノで演奏し、譜例 $^{(2)}$ を聴いた時のそれぞれの印象(きれい、ややきれい、ややきたない、きたない、から $^{(2)}$ つ選択)に、

自分と他者との間にどのような違いがあるかについて明らかにする、という内容である。実験後に、次回の授業(2週目、テーマ:いろいろな音の収集)にむけての事前学習の説明等を行った後、学生は振り返り課題に取り組んだ。

《専門科目》

科目名	音楽表現領域指導法					
担当者氏名	越智 光輝					
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・前期	
ディプロマポ 重点的に身に・	リシーに基づいて つける能力	2-2 知識・技能3-3 汎用的技能5-5 総合的な学				

《授業の概要》

子どもの発達を意識した音楽活動について、フィールドワーク 、グループワーク、個人およびグループによる発表を通じて学 ぶ。学んだ音楽活動にもとづいて、複擬保育を実践する。

《授業の到達目標》

子どもの自由な音楽表現を受容できる保育者となるために、子 どもの発達に応じた表現の領域におけるねらい等について説明 できる。

できる。 楽器や身近な素材を用いて自由な音楽表現が実践できる。 音楽表現活動における子どもの発達に応じた導入方法を実践で きる。

《成績評価の方法》

個人発表(10%)、グループ発表(50%)、課題提出(40%)で総合的 に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

派邊雄介(監修) 芳野道子・越智光輝(編著) 他 保育内容「音楽表現」 声から音楽へ 響きあう心と身体 福村出版株式会社

《参考図書》

必要に応じてプリントを配布する。

《授業時間外学習》

提示された課題への取り組み 発表に向けた自己学習 模擬授業に必要な備品の準備 (本授業では15時間の時間外学修が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

提出された課題、個人やグループによる発表に対して、フィー ドバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	音を聴くことによる受容 と表出	表現の領域における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」に関するグループワーク [時間外学習]日常生活で耳にする音についての調査(復習1時間)
2	いろいろな「音」の収集	身近で耳にする様々な音の収集と発表用資料の作成 [時間外学習] 収集したデータの選別、発表にむけての準備 (予習・復習1時間)
3	収集した「音」について の発表	収集した「音」について、作成した資料を用いた発表 [時間外学習]発表にむけての準備(予習・復習1時間)
4	諸外国の音楽教育	エミール・ジャック=ダルクローズ、コダーイ・ゾルターンの音楽教育について [時間外学習] リトミックについて調べておく(予習・復習1時間)
5	保育者としての歌唱	呼吸器官、発声器官、共鳴器官について学び、発声練習を実践 [時間外学習] 呼吸器官を意識した呼吸法の実践 (予習・復習1時間)
6	楽器との出会い	子どもがふれる楽器と楽器の特長に関するグループワーク [時間外学習] 学んだ分類方法を用いた楽器の分類(予習・復習1時間)
7	楽譜からの情報による印 象の変化	「音楽の3要素」(メロディー、リズム、ハーモニー)が与える様々な印象 [時間外学習] 提出した課題への取り組み (予習・復習1時間)
8	楽器を用いた自由な表現	楽器を用いた独奏曲の楽譜を個人で作成 [時間外学習] 楽譜作成、発表にむけての準備 (予習・復習1時間)
9	作曲した独奏曲の発表 (前半)	出席番号前半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 [時間外学習]発表の振り返り、発表にむけての準備(予習・復習1時間)
10	作曲した独奏曲の発表 (後半)	出席番号後半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 [時間外学習] 発表の振り返り (予習・復習1時間)
11	素材をいかした音作り	オリジナルの合奏曲(紙を用いて音を出す)の楽譜をグループで作成 [時間外学習] 楽譜作成、発表にむけての準備 (予習・復習1時間)
12	作成した合奏曲の発表	作曲したオリジナルの合奏曲をグループで発表 [時間外学習] 発表の振り返り (予習・復習1時間)
13	音楽活動の計画	模擬保育(音楽活動)の計画と指導案作成 [時間外学習] 指導案作成と模擬保育で使用する教材等の準備(予習・復習1時間)
14	音楽活動の実践	模擬保育の実践(1~3班の発表)と講評[時間外学習]模擬保育で使用する教材等の3 備、実践した模擬保育の振り返り(予習・復習1時間)
15	音楽活動の実践に関するまとめ	模擬保育の実践(4~6班の発表)と講評 [時間外学習]実践した複擬保育の振り返り(復習1時間)

図1 音楽表現領域指導法シラバス

■学習ポートフォリオ (閲覧中						
履修科目※	音楽表現領域指導法(幼2C)					
公開開始※	2023/04/07 10:00					
提出期限※	□ 時間を指定する (hh:mm) 2023/04/07 (YYYY/MM/DD)					
提山州派祭	No of Park 1					
課題名※	最大50文字 [第1週・振り返り					
詳細	20行以内で1000文字以内 第1週の授業について、下記①~④を入力してください。④については、特になければ、「特になし」と記入してくだ さい。 ①印象に残った学び ②学びを通じて感じたこと ③今回の学びを、将来、どのように活用するか ④質問					
レポート型の種類※	レポート保存型					
評価回数(目標自己設定型用)	0回 (注:履修生が評価内容を設定後は回数の変更はできません。)					
発行者名	越智 光輝					
添付ファイル						

図2 振り返り課題

課題 1

表 4-3-2 に記載されている、「教育要領、保育指針(3歳以上)、教育・保育要領(3歳以上)」の内容(1)~(8)、「保育指針(1歳以上3歳未満)、教育・保育要領(満1歳以上満3歳未満)」の内容(1)~(6)について、①受容(インプット)、②表出(アウトプット)、③受容と表出の両方、①~③のどれに関連した内容なのか、その理由もふくめて自分1人で考えてみましょう。

次に、複数名で1つのグループになって、1人ひとりの意見を発表し、まわりのメンバーの意見・考えを共有してみましょう。

図3 課題1

表 4-3-2 それぞれの「2 内容」

教育要領、保育指針(3歳以上)、教育・保育要領(3歳以上)

- (1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3)様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

保育指針(1歳以上3歳未満)、教育・保育要領(満1歳以上満3歳未満)

- (1)水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。
- (2) 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。
- (3) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。
- (4) 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。
- (5) 保育士(教育・保育要領:保育教諭)等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。
- (6)生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。

図4 図3 (課題1) に表記されている「表4-3-2」の詳細





3. 結果

3-1 記入学生数

令和 5 年度音楽表現領域指導法の履修登録を行った 95 名のうち、振り返り課題への記入と 提出を行った学生は 90 名であった。

3-2 記入内容

振り返り課題における「①印象に残った学び」への学生の記入内容について表1に示した。

なお、表内の左側の数値(No.)については、記入学生数の確認を行うための値であり、学籍番号等を表示したものではない。

表1 「①印象に残った学び」の記入内容

N.I	=1 1 . d.m.
No.	記入内容
	図によって感じる感性が違うことが印象強く残っています。特に感じられたのは、越智先生がピアノで音楽を弾いた
	時のみんなの感じ方の差です。私は、初めに弾いた方に ややきれい」にし、2番目の方を きれい」にしました。2
1	番目の方は、私1人しかきれいにあげませんでしたが、そう感じた理由は、この音楽を聴きながら、シャンパンを飲ん
	でいるような、違う聴き方をすれば、日本文化の琴のような、お茶を飲んでいるような気分になりました。きたない
	が1番多かったため、人それぞれ感性には差があるなとあらためて感じました。
2	受容(インプット)と表出(アウトプット)は人によって感じ方が違く、Aさんがインプットだと思ったことがBさんに
	とってはアウトプットとして捉えられることがある事を学んだ。
3	教育要領保育指針での3歳未満、3歳以上でのねらいや内容の違いで思った事を言語化すること。人それぞれ思うこと
	が違うこと。
4	受容(インプット)と表出(アウトプット)という言葉に置き換えられること。
	そしてその教育要領や保育指針の音楽の"内容"を受容、表出、その両方に分けられることができるということ。
5	インプット、アウトプットについて。音楽を聴いたりそれで感動することを受容(インプット)といい、人と共有した
	り演奏したりすることを表出(アウトプット)と言う言葉で置き換えている。
6	受容(インプット)、表出(アウトプット)についての捉え方。
7	受容と表出は人それぞれ感じ方が違う。
8	「教育要領、保育指針、教育・保育要領」のねらい、内容を比べることをしたことがなかったので、実際に見てみて
0	だいたい同じことが書いてあるんだなと印象に残りました。その中で言い回しが違う箇所等を見つけたりしました。
	今日は受容(インプット)と表出(アウトプット)について学びました。インプットは、音楽を聞いたりすることで、アウ
9	トプットはそれを友人と共有することだと理解することができました。課題1で1.2.3.に振り分けた時は1.2.3.全て振り
,	分けることが出来たが改めて考えたらアウトプットするにはインプットが必要だと言う意見を聞き1か3しか存在しな
	いのではないかと疑問に思いました。
	インプットとアウトプットについてです。音楽を聴いたり感動することをインプットといい、友達と共有したり自ら
10	演奏したりすることをアウトプットといい、それぞれのねらいや内容からどれに当てはまるのかを考えました。人に
	よって考え方は違い、友達と回答が違う部分もありました。
	印象に残ったことは音楽を聴くことによる受容と表出についてです。理由は今まで歌を聴いたり歌ったりする際に受
11	容と表出を考えて音を聴くことが無かったので今回説明を含め自分なりに受容と表出がどれなのかと考えることで学
	びを深めていけているのかなと思うからです。
12	自然の音と人口の音を集めに行くのがとても楽しみで印象に残りました。
13	音楽の表現には受容と表出があり、保育指針や教育要領などの内容にその2つが深く関わっているという所が印象に残
10	りました。
14	インプットとアウトプットがそれぞれ皆考え方が違くて興味深かった。
	内容の分類をしてグループで共有したときに、自分たちのグループはある程度似た感覚を持ち合わせていたことがわ
	かったが、他のグループではかなりばらつきがあるところもあるということがわかった。また、ピアノの同じメロ
15	ディーでハーモニーを変えた時の音楽を聴いてみて、どのように感じたかクラスによって偏り方が異なることもわ
	かった。これらのことを通して、文章に対しても音楽に対しても考え方や捉え方は人によって違うことが印象に残っ
	た。また、ハーモニーを心地よく感じる感覚は成長の過程で身につけるということも印象に残った。
	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園で比べた時、音楽に関わることが同じような内容で書いて
16	あったが受容「インプット」と表出「アウトプット」で分けるとなると意外と難しかった。グループでわかれてみん
	なと話し合いをした時にそれぞれ思っていることは違って見る視点によってインプットかアウトプットがかわること
	受容(インプット)と表出(アウトプット)では、人によって感じ方が違うことが分かりました。友達の意見を聞いて納得
17	したものもあれば納得しないものもありました。友達の意見を聞いて考え方が広がり、より多くの人の意見を聞いて
	考え方の方向性を増やすことが出来ました。
18	受容と表出について人それぞれで感じ方が違うこと
19	受容インプットと表出アウトプットを知り、それは人によって感じ方が違うと言うことを学びました。

表1 「①印象に残った学び」の記入内容(つづき)

- グループワークで、受容と表出について話し合った時に私は受容だと思っていたことが、相手にとっては表出と感じ 20 られていたりして、人によって感じ方、考え方、捉え方が変わってくるんだなと気づくことが出来ました。また話し 合うことで違う意見を聞けるのでとても勉強になるんだなと思いました。
- 今回の授業で印象に残った学びは、音を聞くことによっての、受容・表出の人それぞれの感じ方の違いです。自分自身で分別したものを、グループ活動で照らし合わせることによって、人それぞれの受容・表出の違いに気づき、学ぶことが出来ました。そして、メロディー・リズムが同じでも、ハーモニーが違うことによって、綺麗だと感じる人と汚いと感じる人の意見の割れ具合にとても驚きました。
- ピアノを弾いてもらい、聴きましたが音楽の感じ方は人それぞれ違く、音楽を知っている人ほど一般の人が感じる汚22 いと思う音をすごく綺麗と感じたり、一般の人が綺麗と思う音を普通だと感じたりと一人一人の楽しみ方が違うんだと感じ学ぶことができました。
- 23 インプットとアウトプットがどのようなものなのかそれぞれの違いについて学んだ事が印象に残りました。
- 表をインプット・アウトプット・両方(①、②、③)に分ける学びが印象に残りました。自分で考え振り分けましたが グループで共有してみると私たちの班はわりと同じでしたが他のグループは何人か同士でバラバラになったり、別れ方でもいつも同じ人たちが項目ごとに別れるなどいろいろな別れ方があるんだと感じました。
- ある音楽をきれいと思う人もいれば、きたないと感じる人もいるということ。受容がないと表出はできない。人に 25 よって目の付け所が違うと感じ方も違う。
- 今回の授業で印象に残ったことは、受容(インプット)表出(アウトプット)の捉え方が違かったことです。保育要領を読んだ際にも、目の付け所が一人ひとり全く違う着眼点を持っており驚きました。
- 音楽を聴いたり、その音楽を感動することを受容、仲間や友人と共有したり、自ら演奏したりすることを表出ということを初めて知りました。自分が今まで当たり前にしていたことに名前がつくと不思議な感じがします。教育要領や保育指針はそれぞれ目を通したことはあるけど、比べることはあまりしたことなかったのでいい機会になりました。内容はそこまで難しくないと感じました。
- 28 課題をグループで考えた時に、一人ひとり同じ言葉でもインプットかアウトプットか捉え方が違いました。どちらが 正解とかではなく、人それぞれ感じ方は違っていいことがわかりました。
- 越智先生が弾いたピアノの音をどう感じるか、挙手数のばらつきをみて、人の感じる感覚が違うことを知りました。 29 ハーモニーについての研究があることを知り、その調査について興味が湧き、自分自身の成長過程で身についた音楽 を感じる感覚はどんなものだろうとも思いました
- 音楽を聴くこと、聴いて感動することインプット、周りの人と共有したり演奏する事をアウトプットと捉えること学 30 びました。クラスメイトのインプット、アウトプットの捉え方が人それぞれで、違いを知る事が出来ました。ハーモニーを心地よく感じる感覚は成長過程で身につけることを学びました。
- インプットとアウトプットについて今まではその言葉を聞いたことがあっただけで、意味までは良く分からなかった 31 けど今回の授業を通して意味を理解することができました。それらからねらいや内容についてどれがインプット、アウトプットかまたは両方なのか考え、グループで共有したことがとても印象的でした。
- 自分で考えた意見を共有することで、友達がどこに視点を置いて考えているのか、また、視点が同じだったとしても受け取り方、解釈が微妙にずれていることで意見も違ってくると分かるということが学びです。他にも、授業の最後に行ったメロディーは同じで音階を変えるだけというので、同じ曲であるのに感じ方が全く違いました。2個目の音を聞いた時、重なった音が少し変な音に私は感じたのですがその音がきれいだと感じる人もいると学んだ。

印象に残った学びは、受容(インプット)と表出(アウトプット)です。私たちは普段の生活から音楽を聞いて感動したものは友達におすすめをしたり、自分でピアノで弾いてみたりしていると感じたからです。保育の現場では、季節に関する音楽を流しその音楽で感動し、子ども同士で○○だねと感想を共有したりすることで10の姿にもある豊かな感性と表現に繋がってくるのでは無いかと思いました。また、どのような音を聴いているのかについてでは、生まれつきではなく成長の過程で身につけることを学び、成長の過程でどのような音楽に親しむかにより変わっていくと感じました。保育園や幼稚園での園生活の中で音楽を聞いたり、ピアノを演奏することによってインプットする機会を作ることの大切さを感じました。インプットしたものをどうアウトプットするかは人によって変わり、その変化が音の聴き方に影響を与えているのでは無いかと思いました。

34 受容と表出について

表1 「①印象に残った学び」の記入内容(つづき)

- グループ内で教育要領・保育指針の内容がインプットか、アウトプットのどれに該当するかについての意見交換をしたこと。
- 受容、表出をグループ分けした際に、1つの文章でも違ったところに着目して、一人ひとりの考え方が様々であること が分かりました。
- | みんなインプット、アウトプットの意味を理解していても文章のどこに注目をしているのかが違うだけで捉え方が違うところがとても面白いなと思いました。
- 印象に残った学びは最後のハーモニーについての聞き取りでした。メロディーと一緒に演奏するハーモニーを変えるだけでも曲の雰囲気が全く違うものになり、人によっていいと感じたり、あまり良くないと感じるのはピアノを習っていたり、吹奏楽をやっていてカードについて勉強していたり、音を聞く機会が多ければクラスの投票結果はまた変わっていたのかなと思いました。
- 39 グループでの話し合い。2曲の曲に関する感想
- インプットとアウトプットの違いを学ぶ事ができました。表4-3-1、4-3-2、4-3-3の1~3に分ける活動で他の人とほ 40 とんど同じ考えでしたが、1箇所だけ違うところがあるなと思いました。一人ひとりによって同じ音楽でも聞こえ方が変わってくるので面白いなと思いました。
- 41 ピアノの音を聴いてきれいからきたないまで手を挙げたことについて人によって聴こえ方が違うということが分かった。どのように感じるかは人それぞれだけれどその個性を周りがどう感じるかを気にしてしまうこともあると思っ
- 42 | 普段何気なく一緒にいる友達と真面目に意見を交換したこと。
- 43 受容、表出を選ぶ問題
- ハーモニーの感じ方が印象に残りました。1度目に聞いた音の方が鮮明な音で軽やかな曲に聞こえました。2度目に聞いた音は、オシャレなお店で流れていそうなひと味違う音に聞こえました。聞き慣れているのは1度目の方である為綺麗な音に感じ、2度目の音はどちらかというと普段聞き馴染みが無いため、やや汚いに偏ったのではないかと考えました。同じ曲でも少し変わるだけでだいぶ印象が変わり、聞いている人の感情も変わるのだと分かりました。
- 私は笹の葉さらさらの歌が2回弾かれましたがどちらも違った綺麗に聞こえました。一曲目は普通の綺麗、2曲目は普通に聴くと汚い音に聞こえるかもしれないけど、違った音同士でたまに重なる綺麗な音が印象的でした。私だけが綺麗と感じたので人それぞれなんだなと改めて思った。
- 46 年齢によってインプットやアウトプットの違いに気付けました。
- 47 図点により様々な感じ方があると学んだ。
- 最後に先生が弾いてくれた曲で皆がどう感じ取るのかが人により受け取り方も感じ方も違い意見が少しバラバラに なっていてとても印象に残りました。
- 保育所保育指針の3歳以上では、「?をして、?する」と一つの目標では無く、複数の目標と合わせていて、環境や 発達状況に合わせてイメージしたり味わったり、心と体で感じさせる部分が多くあると学んだ。
- 50 最後のリズムは同じでもハーモニーなどを変えるだけで全然違う曲の印象になったり、高い音があると綺麗だなと感じ、低い音があると落ち着いてるけど少し音が汚いなと私は感じた。逆にそれを綺麗だと思う人もいたのが印象に
- 今日の授業で印象に残った学びは、授業の最後に先生が弾いていたピアノで、メロディーが一緒でもハーモニーを変えたら全然違う曲に聞こえるということです。
- 52 圏楽を聴いて感じ得て感動したことを他者と共有したり自分から発信できることを学びました。
- 53 | 図ループで話し合ったが、人によって感じかたが少し違っていました。
- 54 メロディー同じなのにハーモニーが違うだけで全く違う印象を受けた
- 音楽を聴くことによってインプットとアウトプットがあることがわかりました。人によって音だけでなく、文章も感じ方が違く、面白いと思いました。自分の考えだけでなく、グループで共有し考えることで色々な考え方があると気づくことができました。
- 音楽を聴いたり、その音楽で感動する受容(インプット)と、仲間や友人と共有したり、自ら演奏したりする表出(アウトプット)があり、内容を1.2.3でわけると人それぞれ考え方が違くて面白かったです。
- 57 最後に行ったハーモニーの違う同じ曲を聞いたもの。

表1 「①印象に残った学び」の記入内容(つづき)

- インプットとアウトプットとどちらにも該当すると思うものを考える時、まず1人で考えることで、自分の意見をしっかり持ち、人の意見に合わせず自分の考えたことを伝えられる機会になった。また、ひとつの文章でも人それぞれ着目する視点が異なっていて、そこから感じる意見が複数あったり、同じだったりしてそれを共有することがまさにインプットとアウトプットだった。
- まず最初に、インプット、アウトプットという音楽の場面での言葉の意味を理解することができました。しかし、そ 59 の後の話し合いでインプット、アウトプットの解釈もそれぞれ人によって違く言葉の解釈によって様々な視点から音楽について見ることが出来ると学ぶことが出来ました。
- 実際にピアノを聴いて、それぞれどう感じたかは最初に聞いたピアノも綺麗だったがおち先生ならもっと上手に弾くかな?強弱をつけるのかな?と思い、ややきたないに投票しました。2番目に聴いたピアノは、それこそジャズのような雰囲気を感じました。汚いと感じる人もいると思いますが、おしゃれと感じる人もいるのではないかと考えました。そのため、音の感じ方、感性は人それぞれだということを再認識しました。
- 課題1の受容と表出を考え、グループで共有しそれぞれの意見を伝え合う活動をしそれぞれみんなと意見が違いなぜ それを選んだのかを伝えたり聞いたりし様々な視点を知ることが出来ました。子どもの過去の状況に置き換え背景を 見て選んだ友達もいれば、保育者側からの目線で考えた友達もいてその視点などはお互い何故それを選んだかを共有 できたからこそ自分の中でも新しく発見が見つかったのだと思い印象に残りました。
- 62 教育要領、保育指針、教育・保育要領を読んで、子どもの表現の育て方でインプットとアウトプットの2つが行えるように作られているのを知ることができた。
- 63 グループで話し合いをすると、意見が同じところと違うところがあり、いろんなグループの発表を聞いても違いがあって全く同じというとこがなかった
- 人の経験によって好む音楽や心地よいと思う音楽は異なるということが1番心に残った学びでした。また、ピアノの音 64 を引く時に中を見てしまうということはとても私は共感出来ます。その中で子どもの主体性や気になったこと興味などを大切にしていくことが必要だということを学びました。
- 表現に関するインプットとアウトプットについてを学びました。インプットは音楽や音などを聞いてみるよ感じた 55 り、気付いたり、触れたりすることで音楽を楽しみ感動すること。アウトプットは、その音楽を楽しみどんなことを 感じたかを言葉にして伝えあったり、それを元にして実際に演奏したり、作ったりと表現すること。
- 66 教育要領や保育指針の言葉に対するグループワークが特に印象強いです。私は正解が無いと言っても、ほとんどが同じ意見になると思っていました。しかし、私だけ違うこともあり、捉え方が様々なのだと改めて感じました。
- 音楽のなかにインプットとアウトプットがあることを学びました。自分は音楽に触れ、感じることがインプット、表 67 現をしたり伝えることがアウトプットだと思いましたが、友達と意見を共有してみると人によって捉え方が変わり、 考え方によってはインプットにもアウトプットにもなることを学びました。
- 68 受容、表出、受容と表出の両方に分ける学び
- 69 受容(インプット)とは音楽を聴いて、その音楽を自分で感じとること、表出(アウトプット)とは自分で表現をしてみたり、他の人と共有し合うことだということを初めて学ぶことができました。
- 70 最後に行ったピアノの音の感じ方違いについての活動が印象に残っていて、ピアノの音だけでも、音の交わり方で音の感じ方が人それぞれ違うのだなと感じました。
- ピアノの伴奏でリズムを変えてそれぞれの感じ方を知るという学びが、周りの人の自分とは違う感性を知ることが出 71 来て面白いと思い、とても印象に残りました。
- 受容(インプット)と表出(アウトプット)について学ぶことができました。自分の中で、思ったこと、感動などが72 インプットで、それを周りに共有したり、実際に演奏することをインプットと知ることができました。そこから教育要領と保育指針で何がインプとなのかアウトプットなのか考えることができました。
- 音楽を聴くことにより人によって受容(インプット)と表出(アウトプット)の感じ方が違うことを学ぶことができまして3 た。また音楽を表現することや感じ方についてもさまざまな表現方法や音楽の違いによっても感じ方がそれぞれあることを理解することができました。
- 音の書き方について。インプットとアウトプットという言葉を初めて聞きました。教科書にはわかりやすく書いて 74 あったので理解することができました。口ずさむだけなのか、演奏したり工夫したりするのかなどになってどっちに 入るかをきちんと考えながら子どもと関わるとどのような感じになるのか気になりました。

表 1 「①印象に残った学び」の記入内容(つづき)

グループ活動でインプット、アウトプット、そのどちらもの話し合いで人それぞれ意見が違うところもあるし、一致 することもあって、捉え方が色々あっていいと思った。だが、意見が合わなかったときは文章をより深く考えてしま いわかりづらくなってしまうところもあったが、先を考えた活動ができて学びを深められた気がした。 教育要領や保育所保育指針などを通してインプット、アウトプットについてグループで共有したことが印象に残りま した。 77 教育要領、保育指針を表出と受容で分けグループで意見を話し合うこと。 インプット、アウトプットについて普段の生活の中で意識して考えたことがなかったから今日初めてインプット、ア ウトプットを意識して文を読んだ。言葉や分の書き方によってインプットなのかアウトプットなのかが異なってくる 78 から判断がとても難しかった。音の教育要領、保育指針は自分の体を使って表現されていたり、生活を通じて周りの 子と成長していく、という文が多いと感じた。 今日の授業を通して、グループで課題の意見を共有し合い、受容と表出の捉え方が人によってそれぞれで、その意見 79 を発表し合うことで新たな発見や、そういう考え方もあるのかという気づきがあったので、とても印象に残りまし それぞれの内容についてです。この文はインプットなのかアウトプットなのかそれとも両方なのかを考えました。同 じキーワードなのに回答が違うものが多くとても難しかったです。 教育要領・保育指針の内容を読んで、その項目がインプットなのかアウトプットなのかを考え、意見を交換し合った こと。インプットについては全員が同じ意見になることが多かったのに、アウトプットや両方となると、意見がバラ バラで同じ文章でも、人によって様々な考え方や捉え方が出来るのだと感じた。例えば、「いろいろな素材に親し 81 み、工夫して遊ぶ」だと、私はインプットとアウトプットの両方だと考えたが、私以外の友達は全員アウトプットと 考えていた。理由を聞くと、「この文章からだと1人で遊んでいるように感じる。人と関わっているような文章は両方 に当てはまると思う」という意見を聞いて、そのような考え方もあるのだなと思った。 楽しむという表現が難しく、人それぞれ捉え方が違った。インプット、アウトプットについてあまり知らなかったけ 82 ♥ど詳しく知ることができた。それぞれの内容では子どもが実際になにかするという表現が多く使われていると思っ 83 受容と表出についてのグループでの話し合いが自分の考えと異なる部分もあったのですごく印象に残っています。 |印象に残った学びは123で分けてそれをグループで共有したことです。私はほぼ全部が3になって、2と1は1つづ つしか出なかったけれど、皆は2が多めで1と3もありました。みんなとはアウトプットの意見が合いましたが、イン 84 プットの意見がそれぞれ違ってきました。特に、楽しむというワードがインプットなのかアウトプットなのかで意見 が違いました。改めて、自分は人と少しずれた考えをしているかもと思い印象に残っています。 人が感じる悲しい,楽しいと同様に聞いた音や、触った感覚から人それぞれ異なった感性や感情が生まれることを 知った。みんなが同じなのではなく、人それぞれ違った感じ方、表現の仕方があることが学べた。 86 音楽にはインプットとアウトプットがあることが印象に残りました。 受容(インプット)と聞いて、頭に入れたり、覚えたりすることだと思っていましたが、インプットとは音楽を聞 き、感動をすることだということが印象に残りました。その上で、保育指針や教育・保育要領のねらいを見て、子ど 87 もが自分から日常生活の中の何かに触れ、感じたり、そこからイメージを膨らませたりすることが音楽表現領域のイ ンプットだということを学びました。 受容(インプット)表出(アウトプット)について課題1を通して学びを深めることが出来ました。グループで共有するこ 88 とで自分とは違った考え方を知ることもできました。 最後に先生が七夕を弾き、聞いた感想を手を挙げた時、和音表現が違うだけで捉え方が変わるという面白い経験をし て、ピアノのハモリで人の考え方が変わることを学んだ。あまりピアノを聞くことがないのでいい機会になった。 ・受容、表出についてのグループワーク

3-2 記入内容における単語の出現頻度および「スコア」

90

振り返り課題における「①印象に残った学び」への学生の記入内容(表 1 参照)について、

人によって子どもが感じる楽しさを、受容と捉えるか、表出と捉えるか違ったことが印象に残った。

AI テキストマイニングによる単語の出現頻度および「スコア」を表2に示した。

	名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度	形容詞	スコア	出現頻度
1	インプット	336	66	感じる	21.5	66	汚い	1.37	6
2	アウトプット	301.75	62	違う	10.05	52	無い	0.14	6
3	音楽	29.52	45	思う	0.78	37	面白い	0.14	6
4	受容	245.14	40	残る	10.54	29	多い	0.11	6
5	表出	257.57	39	聞く	2.04	29	難しい	0.2	5
6	音	13.45	38	考える	1.9	26	しいしい	0.02	5
7	それぞれ	26.91	34	学ぶ	24.28	25	心地よい	1.74	3
8	印象	23.56	34	聴く	3.38	23	深い	0.09	2
9	意見	22.48	30	できる	0.56	21	強い	0.02	2
10	共有	29.87	23	捉える	23.45	18	すごい	0.01	2
11	グループ	12.53	23	知る	0.57	15	良い	0.01	2
12	保育	46.35	18	出来る	0.38	12	きたない	0.66	1
13	ピアノ	11.88	18	変わる	0.62	11	わかりづらい	0.63	1
14	要領	47.71	17	弾く	4.35	10	興味深い	0.22	1
15	教育	17.82	16	分ける	2.27	7	何気ない	0.19	1

表 2 単語の出現頻度および「スコア」

4. 考察

本研究の目的は、音楽表現領域指導法の授業改善にむけた方策を検討するために、授業終了時の約10分間で実施している振り返り課題の学生の記入内容の分析を通じて、「授業の回における学びのポイントを見過ごしている」学生の実態の把握における振り返り課題の活用の有効性について検証を行うことであった。

令和 5 年度音楽表現領域指導法第 1 週の授業における学びのポイントとして、「 I . 受容 (インプット) と表出 (アウトプット) に関する考え方」、「 II . I にもとづいた幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」における 3 歳以上と 3 歳未満における違い」、「 III . II における自らと他者の考え方における相違点」、「 IV . 実際の演奏を聴いた際の自らと他者との印象における相違点」これら 4 点が挙げられる。表 2 における単語の出現頻度および「スコア」の結果からは、第 1 週の学びのポイントに関連しているキーワードについて、特に名詞において数多く検出されていると考えられる。

表1においても、ほぼ全ての学生が受講した授業における複数の学びのポイントのうち「I. 受容(インプット)と表出(アウトプット)に関する考え方」と「Ⅲ. Ⅱにおける自らと他者の考え方における相違点」について記入をしていると考えられる。中には表1のNo.33のように、学びのポイントの多くについて取り上げ、それぞれのポイントを関連づけて自らの考えを

記入している学生もいる。「 Π . Iにもとづいた幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」における3歳以上と3歳未満における違い」について記入した学生の割合は「 Π . Π における自らと他者の考え方における相違点」を記入した学生の割合より低い傾向にあった。このような結果になった要因については不明であり、記入した学生の割合が低い傾向にあるという結果だけで、「学びのポイントを見過ごしている」と結論づけることは困難である。

一方、表 1 の No. 12 や No. 42 のように、受講した授業の学びのポイントと関連していない記入を行っている学生の存在が確認でき、その割合は 2.2%であった。本研究は令和 5 年度音楽表現領域指導法の履修登録をした学生 95 名のうち、振り返り課題への記入と提出を行った 90 名について分析を行ったが、記入提出を行わなかった 5 名が、No. 12 や No. 42 と同様の記入をしたと仮定した場合、学びのポイントと関連していない記入を行うと推測される学生は 95 名のうちの 7 名、全体の 7.3%までその割合は高まる傾向にある。学びのポイントと関連していない記入を行ったこのような学生についても、学びのポイントを見過ごしていたために関連していない内容を記入したのか、学びのポイントは見過ごしていないが関連していない内容を記入したのか、その要因は不明である。

以上の理由から、振り返り課題の記入内容を「授業の回における学びのポイントを見過ごしている」学生の実態の把握に活用するためには、振り返り課題の項目や質問内容について再度検討する必要があると考えられる。

5. おわりに

本研究の目的は、「授業の回における学びのポイントを見過ごしている」学生の実態の把握における振り返り課題の活用の有効性についての検証であった。振り返り課題の記入内容の分析を通じ、学生が興味や関心を持った学びのポイント等については明らかになったが、学びのポイント見過ごしている学生の実態の把握には至らなかった。

振り返り課題の項目や質問内容について検討するとともに、検討した内容についてあらためて学生の実態の把握に関する有効性について検証が必要である。また、振り返り課題の「②学びを通じて感じたこと」や「③今回の学びを、将来、どのように活用するか」に記入された内容についての分析については本研究では行っておらず、授業改善にむけた取り組みについて、今後の研究の継続が重要である。

著者の利益相反: 開示すべき利益相反はない

注

1) 本稿における「スコア」とは単語の重要度を示す数値であり、出現回数や出現状況(どのような文章で出現するか)等を複合的に判断し算出されている。

(https://textmining.userlocal.jp/questions#data_q2 参照 2023/09/14)

- 2) 本稿での受容(インプット)とは、音楽と触れ合う体験を通じて、嬉しい、楽しい、悲しいといったさまざまな感動を得ること、とする。
- 3) 本稿での表出(アウトプット)とは、音楽を通じて得た嬉しい、楽しい、悲しいといった さまざまな感動を、仲間や友人と共有することや実際に楽器を用いて演奏して表現してみる こと、とする。
- 4) 本稿の図 4 において、教育要領、保育指針、教育・保育要領、の記載があるが、これらの記載は、引用文献(渡邊他 2022) の p. 131 における 「『幼稚園教育要領』(以後、教育要領)(中略)、『保育所保育指針』(以後、保育指針)(中略)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(以後、教育・保育要領)」による。

引用文献

- (1) 株式会社ユーザーローカル 「AI テキストマイニング by ユーザーローカル」 https://textmining.userlocal.jp/ (2023/09/14 参照)
- (2) 渡邊雄介監修、芳野道子・越智光輝編著、他(2022) 保育内容「音楽表現」声から音楽へ響きあう心と身体、福村出版、東京、pp. 131-132.

参考文献

- 藤井美津子 (2019) 「保育者養成校における表現指導の取り組み -授業の実践と学生の記録の分析から表現の深まりを目指して-」滋賀文教短期大学紀要 21, pp. 1-18.
- 林田和喜・星野由雅・原由喜夫他(2023) 「受講者の振り返りをもとにした授業改善―教職 大学院の授業「教職実践協働運営演習」の場合―」 長崎大学教育学部教育実践研究紀要 22,pp. 266-274.
- 堀哲夫 (2009) 「学習履歴を中心にした大学の授業改善に関する研究-OPPA を中心にして -」 教育実践研究:山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 14, pp. 64-71.
- Josh H. McDermott, Alan F. Schultz, Eduardo A. Undurraga, Ricardo A. Godoy: Indifference to dissonance in native Amazonians reveals cultural variation in music perception, 2016; Nature 535 (7613), 547-550.
- 厚生労働省(2017) 保育所保育指針〈平成29年告示〉、フレーベル館、東京.
- 文部科学省(2017) 幼稚園教育要領〈平成29年告示〉、フレーベル館、東京.
- 内閣府(2017) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉、フレーベル館、 東京.
- 清水 誠(2023) 「学習履歴表を活用した授業改善ー領域「環境」の学習を事例に一」国際 学院埼玉短期大学研究紀要 49. pp. 1-10.